

地本
申7号
Part①

秋田地本第39回定期大会 発言に基づく申し入れ

7月8日開催の秋田地本定期大会において、多くの代議員から職場問題についての発言がありました。「変革2027」の目指す「システムを超えて新たな価値の創造を推進していく」観点で運転士・車掌の相互運用が進められ、全ての運輸職場から発言があり「車掌の要員の穴埋めでしかない」「今の教育期間では覚えられない」といった職場の声が出されました。また「新たなジョブローテーション」においては本人の描いたキャリアプランを現場で把握することなく意識付けがされるなど、モチベーションの低下に繋がりがねない状況についての発言もありました。10月27日に申1号について団体交渉を行ってきました。

今交渉で確認したことを基に、職場での議論・検証を展開していきましょう！

第1項 相互運用における、目指すべき車掌像を明らかにすること。

【回答】担当業務間の相互運用を行うことによって、安全とサービス向上を図るものである。

【組合】相互運用の車掌について、**どのレベルまで求めていくのか。**

【会社】相互運用の車掌の経験年数によっても違う。ここまでのレベルと**決まっているものはない。現場長見極めを行い、単独乗務できる必要な技量。**

【組合】**「とりあえず最低限の運転扱いができればいい」という管理者もいるのが現実。**

【会社】POSも扱えないのに一本立ちとはならない。難しい切符の発売などあるが、乗務経験を積んでいくことでスキルアップしていく。

【組合】**基本的に不安に感じているのは営業。**お客さま対応やPOS操作が不安との声が多い。

【会社】相互運用の教育は営業がメイン。運転士なので運転業務についての教育は少ない。**ワンマンもあるため、お客さま対応はできると考えている。**

【組合】弘前統括センターでは、技術維持向上の目的で行路が拡大された。現実には技術維持ではなく、車掌がまわらなくなると運転士に行路が振られる。要員が大きく関係している。

【会社】技量を維持していくために見ていく。箇所に周知していく。

【組合】安全・サービスレベルは向上した認識はあるか。

【会社】運転士が若手、車掌が運転士経験の長い相互運用の方であれば異常時は心強い。サービスには輸送サービスもある。

・不安を解消していくのが会社の役目。補完教育、添乗なども行っていく。

・最低限の運転業務ができればいいというのは基準ではない。

安全・サービスレベルを低下させる施策ではダメ！

第2項 横手・大曲統括センターでは車掌の要員が足りず、運転士が車掌交番に入らなければいけない現状があるため必要要員を確保すること。

【回答】必要な要員は確保しているところである。

相互運用の目的と、担う側の実感に乖離があるのでは？

【組合】相互運用の目的を教えてください。

【会社】多角的視点をもつことで安全・サービスレベルが向上する。社員の成長に繋がる。

【組合】**当初は交番には入らないと説明があった。**なぜこのような状況になったのか。

【会社】当初は交番に入らないイメージだった。**退職者が出るなどした。**訓練会で周知したが、コミュニケーションをとり丁寧に進めるよう指導している。本人の了解を得て交番に入っている。

【組合】今後車掌を増やす考えはあるか。運転士の車掌行路の休労が増えている。**いつ解消になるのか。**

【会社】休労は一時的にある。**車掌業務ができる必要な要員は確保されている認識。**未来永劫について言えないが、**必要な業務をまわしていく**ということ。